記念メダル健在 哀愁の輝き

京滋観光地11カ所に販売機

万博で人気爆発

観光地の片隅で記念メダルの販売機を見かけたことはあるだろうか。表は絵柄で、裏に名前と日付を刻印できる。1970年の大阪万博を機に全国に広がり、往時の人気は薄れたが、京都府と滋賀県の少なくとも11カ所で健在だ。「今どき誰が買うの?」と素通りする人もいるかもしれないが、昭和の香り漂う哀愁の輝きに魅せられた収集家も少なくない。何と全国を巡って600枚近く集めた親子もいる。その魅力とは。(樺山聡)

記念メダル　京滋の販売場所

※　茶平工業による。京都タワーは改修のため販売機がある展望台は営業を休止中。メダルは○○さん所有の写真

名前・日付刻印　収集旅行の親子も

東映太秦映画村(京都市右京区)にある記念メダル販売機で、日付とともに「ガチャンガチャン」と音を響かせながら刻印された。

しばらく感動に浸っていたが、ほかの入場者が販売機の前で立ち止まる気配は。ただ、「この世に一つしかない記念メダル」に魅せられた人もいる。

「集め出すと止まらなくなって」。大阪○○さん(48)は、記念メダルをとじ込んだ冊子を、自宅で大切そうに広げた。この5年間、小学6年の次男○○君(12)と全国の記念メダル販売機を巡り、その数は延べ31カ所。枚数は計599枚に及ぶ。「自分だけのメダルっていう感じが好き」。○君は話す。

名前と日付を刻印する記念メダルを製造している、大阪市のメーカー「茶平工業」は、66年ごろに大阪市内のボウリング場で販売を始めた。70年の大阪万博会場に出店したところ、製造が追いつかないほど人気を集め、その後も札幌五輪や国内の博覧会の会場に出店を重ねて、全国に設置が広がったという。

○○さんが最初に記念メダルに出合ったのは10歳の時。家族旅行で舞鶴港から北海道に向かうフェリーの中で買ってもらったが、長らく忘れていた。

2007年。祖母と和歌山城を訪れた○君が記念メダルを買ってもらって持ち帰った。それを見た○さんが懐かしさから調べてみると、関西で今も販売していることがわかった。「ほかのメダルも見てみたい」。○君。「一緒に行ってみようか」。父と息子の全国行脚が始まった。

東映太秦映画村にある記念メダルの販売機(右)と刻印機＝京都市右京区

収集した記念メダルを見つめる○○さん親子(大阪府寝屋川市)

車で出掛け、販売場所を効率良く回る。テーマパーク、水族館、博物館…。施設の開館時間に合わせて自宅を夜に出発し、収集の合間に名所を巡った。節約のため、温泉付きの道の駅に駐車し、車中で泊まった。

茶平工業のホームページの一覧を参考に集めていたが、掲載されていない販売場所もあることがわかり、見つけ出すことも楽しみになった。中にはJリーグチームの練習場や山腹の土産物店内など意外な場所もあり、2人は記念メダル巡りに夢中になっていった。毎週のように繰り出したときもある。

「旅のおかげで次男と会話の幅が広がった。2人の思い出も刻み込まれたメダルは大切な宝物」。○さんは目の前の記念メダルを大切そうに見つめた。

全国500ヵ所、絵柄2500種類

茶平工業によると、記念メダルの販売機は現在、全国約500カ所に設置され、絵柄は約2500種類に上る。東京では日本武道館やNHKなどテレビ局、大阪では通天閣や大阪城、海遊館などにある。

催しに合わせて期間限定で会場に販売機を置くこともあるという。初期の刻印機はタイヤル式で、アルファベットが記された円形盤を、黒電話のように刻印したい文字に指をかけて回した。現在はキーボードで入力するが、ごく一部でダイヤル式も残っている。

記念メダル収集家のインターネット上のブログは同社が把握しているだけでも20に及ぶという。

地元食材でコース料理も

舞鶴市は3月1日から5月末まで、特産物名度アップを図る。

開設するのは、全国自治体の名産品を取り扱う全国うまいもの交流サロン「なみへい」(東京・日本橋)。店内では万願寺とうがらしのしょうゆ漬けや舞鶴茶、かまぼこなど水産加工品などを並べ、ポスターも掲示して舞鶴の名を売り込む。

また3月1～31日の間は、レストランで佐世保バーガーや肉じゃがなどのご当地グルメを提供。

檜皮葺く体験も

来月2日、文化財ドック

文化財の修理や保管の悩みについて専門家が相談に応じる「文化財ドック」が3月2日、木津川市木津の市中央交流会館で開かれる。

文化財ドックは、府内の文化財所有者たちでつくる京都古文化保存協会と、伝統工芸の技術者組織「文友会」が2009年から府内で催している。木津川市での開催は初めて。

文化財について専門の知識を持つ職能技術者で初めつくる「匠の技展」と題して、文化財の修復に使う材料や道具、修復工程を紹介する。また、会場で、「匠」(たくみ)る「匠の技体験コーナー」も設ける。

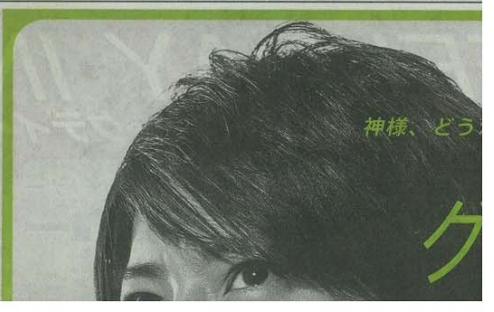
午前10時～午後4時。申し込みは不要だ。

文化観光

局☎075(561)1795。

第4期塾生を募集

京町家作事組

「京町家作事組」(事務局・京都市中京区)は、今春に開講する第4期「京町家棟梁塾」の塾生を募集する。

人で、町家の作事にかかわる職人。性別、年齢は不問。書類審査の後、面接がある。入塾料5万円、2年間の受講料計15万2千円。定員15人。問い合わせは、京町家作事組☎075(252)0392へ。締め切りは2月28日。